

相国寺御用達

京菓菓

雲龍

雲龍は相国寺に保存されている狩野洞春の龍画に感銘を受け創作した、京菓匠・俵屋吉富の代表的な名菓です。雲龍の奥深い旨さの秘密、それは精選された材料と、一本一本心をこめて巻いていく手づくりの味にあります。心をこめた贈り物に幸福を呼ぶ雲龍をどうぞ……………。



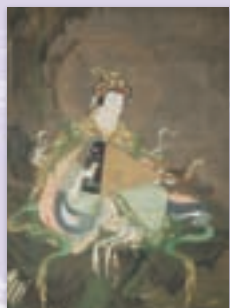
圓明

平成二十五年 正月号(第九十九号)



大本山 相国寺
相国会本部





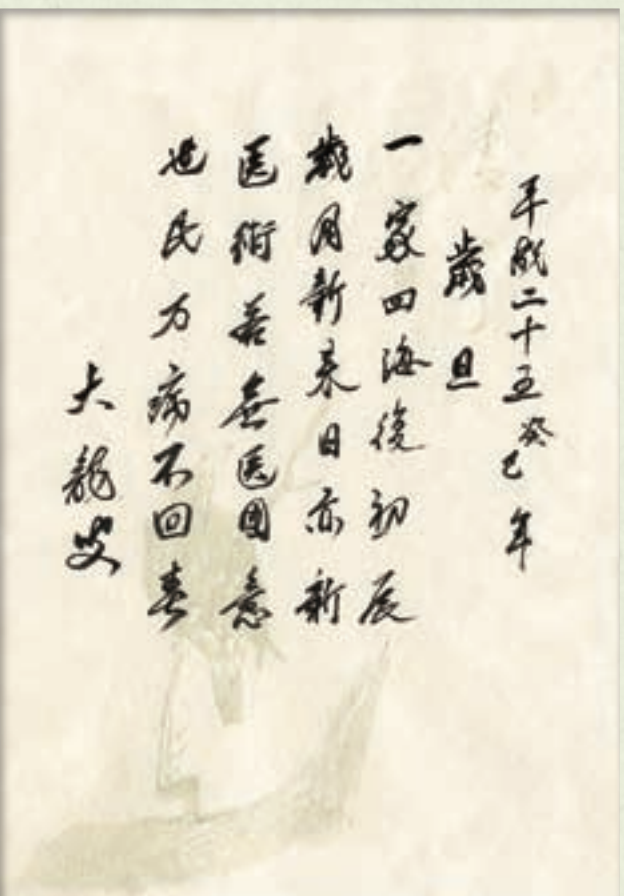
◆表紙写真

『妙音辨財天画像』西園寺家伝来室町
(大光明寺蔵)

辨財天へんざいてんとは古代印度ヒンズー教の女神サラスヴァティテイのごとである。表紙の弁財天は、十二年前の平成十三年の巳年に、安置されていた六角堂から百年振りに御開帳した。日本では七福神の一柱として、福財、学問、芸能、また特に音楽の神として信仰され、蛇はその使いとされてきた。このように琵琶を弾く像が多く描かれており、美しい音を奏でることから妙音天とも称される。

歳旦祝語

管長 大龍窟 有馬頼底



平成二十五年癸巳年

歳旦

一家四海復た初まる辰
歳月新たに來たる日亦新
医術若し國を医う意無くんば
世民の万病春はめぐらず

大龍叟

一家世界また初まる辰
新年が来て日も亦新たななり
若し被災地に医術がすぐれなければ
世の中いつまでも春はこない。

光照寺

9月26日



記念品を受ける荒木元悦兼務住職



総代北川弘美氏謝辞

第十回 管長御親教 第二教区

平成24年9月26・27日



蔵泉寺参道の「夢窓国師腰掛石」に腰掛ける管長猥下



2

檀家さんからの手厚い歓迎

3

福性寺

9月26日



記念品を受ける吉田弘道住職



総代栗林栄一氏謝辞

大雲寺

9月26日



記念品を受ける中川弘道住職



総代薩山暉氏謝辞

蔵泉寺

9月27日



矢野教学部長挨拶



記念品を受ける早瀬祖順住職



総代山口浩二氏謝辞

神昌寺

9月27日



山本宗務総長挨拶



記念品を受ける久山隆昭兼務住職



総代服部義明氏謝辞

謹賀新年



管長 大龍窟 有馬頼底

新年の御祝詞謹んで申し上げます。

昨年は、第二教区巡教の第一回目で五カ寺様に伺い、各位には大変御世話になりました。本年は、引き続き第二回目を行いますので、何卒宜しくお願いいたします。また、来年は沖縄県の通天寺様に参る予定にしており、これで残りは第一教区のみということになります。

さて昨年三月末に、米国・ワシントンD.C.へ行ってまいりました。伊藤若冲の「動植綵絵」三十幅と、当寺蔵の「釈迦・文殊・普賢」各菩薩の計三十三幅が、米国立ナショナルギャラリーに約二ヶ月間出品され、『伊藤若冲 日本花鳥画展』を開催してまいりましたが、若冲人気は大変なもので、会期中二十七万人の入場者を記録し、今迄の入場者で七番目に多くの来客者を記録したそうです。そして、三回の法要を厳修していただきたいとの依頼で、記念法要を執り行つたのですが、米国の人たちは、佛教行事にひどく感動のおももちでした。

その宮内庁蔵の「動植綵絵」三十幅のカラーコロタイプが完成し、現在工事中の方丈が完成して、来年六月の観音懺法

厳修を待っての公開となります。一年半後ということになります。乞御期待。

昨年、御縁があつて広島で原爆に遭った楠の大木から佛像を彫っている方々を紹介され、早速観音菩薩を依頼し、それが出来上がって、法堂で開眼法要を厳修しました。京都市長らが同席のもと、広島地方の方々、京都在住の方々など百人ほどの参詣者に焼香をいただいて無事法要を終え、現在は承天閣美術館に安置されております。

私は、核兵器廃絶の呼びかけ人として、この世から核兵器をなくす運動をしており、この観音様にお詣りの度たびに、原爆のおそろしさを思い起こしていただきたいと思ひます。

また、四年前に発足した「明日の京都、文化遺産プラットフォーム」(会長前ユネスコ事務局長)において世界遺産に登録(一九九四年)されている社寺、城十七ヶ所の所有者が初めて一堂に会する「世界遺産『古都京都の文化財』ネットワーク会議」が一昨年の六月十四日に開催され、さらに去る十一月七日には、現ユネスコ事務局長のイリーナ・ボコバ女史を迎え、我々のアピール文を私の手でお渡ししました。採択四十周年を記念してのことでもあります。

秋には方丈の落慶となる模様で、ようやく本山の伽藍が整うこととなります。

昨年十月に『よろこびの禅』『茶の湯とは何ぞや』と相次ぎ本を出版しました。さらに、本年もう一冊出す予定です。

それでは今年一年、すこやかに過ごして下さい。

年頭御挨拶



宗務総長 山木康稔

新年明けましておめでとうございます。

本山に於きましては、管長大龍窟老大師猊下には、益々御清安にてご越年なされて、内局一同そろって新年の慶びを共に致しております。この一年沢山の方からのご協力を頂戴致しまして感謝の念に耐えませぬ。

ここで昨年後半を回顧してみますと、

(七月二十七日)東京別院の庫裡新築落慶法要が、管長猊下の導師の元に、執り行われ、次いで同じく別院の方丈地鎮起工式が修行されました。韜光室老大師、金閣寺執事長、他本山内局が出頭し、施工関係者など約四十名ほどの参集となりました。

(八月二十一日)広島原爆被災楠の木で、聖観世音菩薩を広島で被爆なさった中

西平三(70)佛師が主になって彫像されて、相国寺本山に寄進され、法堂に於いて、一山出頭の下、開眼法要が厳修されました。導師は管長有馬頼底猊下で、開眼の祝語は萬水千山被爆塵木檀醒覚夜長眠毫瑞一溜靈源水明眼観音自在仙。

当法要には外部より門川大作京都市長、参議院議員佐藤正久氏、京都外国語大学総長森田嘉一氏他約四十名程の出席がありました。

(九月二十六日)管長猊下御親教(第二教区)が南丹市美山町光照寺、亀岡市旭町大雲寺、亀岡市保津町福性寺で、同二十七日亀岡市東別院町神昌寺、京都市西京区嵐山藏泉寺の順に、住職・寺庭さん、檀信徒の方々に前に法話に加えて、本山と末寺との相互関係を分り易くお話しになり、檀信徒の皆様には宿坊を通じて日頃の本山への多大なご協力に対して、感謝の言葉をのべられ、本末の交流を深める事の大切さ、更には世界情勢問題等にも幅広く触れられました。

(十月十三日)東京別院での維摩会(管長猊下の坐禅と提唱・法話の会)が庫裡落慶によって開催が可能となりました。長らく休会となっていましたでしたが、この日再開初日となり多数のご参加があり、初使用の仮坐禅堂も以前よりずっと余裕があって気持よく、皆様も坐禅に一層身が入っている様子に感じとれました。今後、漸次参加者も多くなると予測致しております。尚、これまで使用しておりました建物跡に會てより検討中だった方丈の建設が、いよいよ開始の運びとなり、本道場

も見通し明るく「乞御期待」という所です。

(十月二十五、二十六日)臨黄移動理事会が向嶽寺(山梨県塩山)本山で開催され、総長、財務部員・慈照副住職、教学部員・光源副住職三名が出席致しました。検討事項と一部結果について要約致しますと平成二十八年三月九日(水)宿忌、十日(木)半斎の予定で臨濟禪師一一五〇年・白隠禪師二五〇年遠諱合同法要が東福寺法堂で営弁されることになりました。雲納報恩接心はその直前に当る上記同月四日(先駆到着)〜八日講了、九日分散の日程で、京叢林が法要加担することになっております。一般在家対象のメガ接心及各地で二日程度の接心企画があり、平成二十五〜七年には臨濟禪師顯彰旅行として中国河北省の臨濟寺等への拝塔訪中団を結成して、現地での日中合同法要(未定)などが検討されました。その他展覧会、学術出版、シンポジウムなどについては今後の継続審議となっております。

さて、平成も早や四半世紀のところはまだ参りました。今日の世界情勢は不穏で、不況脱出まで可成り長期を要しそうであります。国内景気も円高と欧州経済に於ける債務超過と減速傾向で下方修正されています。私達も物の豊富さにおおれず消費税率のアップも視野に入れて、止むを得ぬ高額の仕事は早い目に梟(けり)つけ、極力消費を節約し、仏恩に感謝すると共に堅固な生活意識を以て、よりよい社会を作り上げるべく個々の努力が更に期待されるところであります。

少し視点は変わりますが、最近は人心の温かみが、どこへ又どうして消え去ってしまったのかと考えさせられる報道が数多(あまた)です。

家族・親戚・友達同士でいがみ合ったり、行きずりの人を危(あや)めたりするなど、人の道から外れた(はず)とんでもない事件が後を断ちません。人それぞれ、何人にも犯されぬ人格と尊い生命(いのち)を持っています。それを無視するなど実にあるまじき行為で、国内の治安さえ懸念され、佛教の側面からは実に恥しく、人間としてあるべからざる行為が横行しています。よりよい社会は人々の心の問題と密接な関係があります。

「七佛通戒偈」には次の様に出ています。

諸悪莫作　どの様な悪いことも行つてはいけません
衆善奉行　みんないつ何処に於いても善い事を進んで行いなさい
自浄其意　自我や煩惱を捨て去り、心を清浄にすること
是諸佛教　これが諸佛眞の教えなのです

年頭に当り、互いに謙虚な気持でこの事を実践すべく切磋琢磨して行く事を誓いたいものです。

本年も何かとご協力を賜わり度く、御法愛の程ひとえにお願い申し上げます。

年頭御挨拶



相国会会長 片岡匡三

管長有馬頼底殿下をはじめ、本派寺院、御住職並びに相国会会員、檀信徒のみなさま、新年おめでとうございます。新春を迎え、ますます御健勝のことと拝察いたします。心よりお慶び申し上げます。

昨年度もいろいろな行事が執り行なわれました。

『東日本大震災物故者一周忌法要』が平成二十四年三月一日(木)午前八時より本山法堂に於て厳粛に執り行なわれました。あの大震災で、一瞬にして二万数千の方が犠牲になられ、今尚、行方不明の方が多数おられると聞き及びます。深く哀悼の意を表し、御霊位の安らかな御冥福をお祈りいたしました。先ごろ、管長有馬頼底殿下は、

福島県庁を訪ね、佐藤知事に義捐金を渡され、勝行院に於ての追悼法要に参加されました。有難うございました。東北の各地で、被災されたみなさまが復興に日々努力されておられるお姿が報じられます。その度に、みなさまのニーズに適切に、迅速に、充分に応じていないのではないかと心が痛みます。国民の一人ひとりが我がこととして、もっと、もっと深刻に受けとめ、さらに連携を密にして、支援の「絆」を一段と強めなければいけないと思います。又、被災されたみなさまも健康に留意されて、一日も早く復興を遂げられますよう御健闘をお祈りいたします。

「相国会本部役員会」が平成二十四年五月二十五日(金)午後一時より本山会議室で開かれました。審議に入る前に四教区新理事に伊藤彰氏、相国会副会長に二教区波多野外茂治氏の委嘱状の授与がありました。よろしくお願いいたします。事業計画の報告がありました。とりわけ四教区若狭少年研修会が注目されました。ここ何年間も継続して少年研修会が四月に実施している由、驚きました。又、この四教区からは十月二十一日の夢窓国師毎歳忌には八十名の一般信

者のお参りがありました。御住職と檀家のみなさまが固く結ばれて、各御家庭で篤い信仰心を真摯に、大切に育て、実践されている様子をうかがうことができました。その御努力と御熱意に改めて敬意を表する次第です。

教区の理事、顧問各位、遠方から御参集下さり、慎重な審議をいただきましたことを御報告申し上げますとともに感謝いたします。

「開山夢窓国師毎歳忌法要」が平成二十四年十月二十一日(日)午前十時より本山法堂に於て厳肅にとり行なわれました。若狭、島根、宮崎、鹿児島の各方面から檀信徒さまが大勢参拝されました。管長猊下が御開山の仏壇の前で、香語を唱え、焼香の後、一山のみなさまが音吐朗々と威儀作法にのっとり、経典を読誦しながら法堂を巡拝されました。荘重な行導の中に祖師を尊崇し、護法一途の宗風が今もって脈々と受け継がれていることに今年も又、改めて感動いたしました。安穩に生きる日常から離れて、しばし法恩に浸り、道心を喚起し、感動、感謝の機会をお与えくださったことに改めて感謝いたします。

私は滋賀県甲賀の専門学校で二人の若手教員と「心」の講座を担当して三年になります。「背すじを伸ばして坐る」「静かに呼吸を調える」「月に一度、九十分の講座です」「感謝する心」を育てるのが当面の目標です。この二人は僧堂の小林玄徳老師の御温情にあずかり、僧堂での研修を許されました。雲水のみなさんの命がけの修行に驚きながら、無事短い研修をおえることができました。その貴重な厳しかった体験を静かに学生たちに語りかけるのです。学生は、まばたきひとつすることなく、引き込まれるように聴いています。話が終ると学生たちは、ぐっと姿勢を正し、静かに坐り直しています。再び凜とした静寂が、教室にみなぎります。

私は、この貴重な講座を今年も大切にさらに充実したものにしていきたく思っています。

どうぞ本年も相変わリませず、よろしく御教導の程お願い申し上げます。

合掌

平成二十四年度 御親教日単

有馬頼底管長、山木康稔宗務総長、矢野謙堂教学部長、江上正道部員(記録)、荒木泰量部員(記録)、第二教区桂徳院小出量堂住職(随行)

9月26日

午前7時30分 先駆本山出発
 8時 管長猥下、宗務総長本山出発
 9時 先駆、光照寺到着
 9時25分 管長、総長光照寺到着、境内にて多数の出迎えを受ける
 到着茶礼
 9時40分 殿聲五聲支度、全連声出頭、有馬管長、山木宗務総長、矢野教学部長、光照寺荒木元悦兼務住職、竹林寺牛江宗道宗務支所長が出頭
 同教区は心寺和田賢明住職が司会進行、大應寺久山弘祐住職が殿司を務める
 一、般若心経、消災呪、本尊回向、開山回向

二、甘露門、檀信徒先亡回向
 (※兼務寺院は同式次第)
 光照寺へ御親教記念品贈呈
 (管長猥下墨蹟書き下ろし)
 管長猥下法話
 宗務総長挨拶
 教学部長挨拶
 檀信徒謝辞 総代 北川弘美氏
 記念撮影
 10時45分 御親教終了
 10時55分 光照寺出発
 12時 亀岡市旭町「美濃田公民館」到着、昼食
 12時40分 先駆、大雲寺到着
 13時 管長、総長大雲寺到着、参道にて多数の出迎えを受ける

13時10分 到着茶礼
 御親教開教、管長、総長、教学部長、大雲寺中川弘道住職、宗務支所長が出頭
 一、般若心経、消災呪、本尊回向
 二、大悲呪、開山回向
 三、甘露門、檀信徒先亡回向
 (※有住寺院は同式次第)
 諷経後大雲寺へ御親教記念品贈呈
 その後管長法話、総長、教学部長挨拶
 檀信徒謝辞 代表 蔭山 暉氏
 記念撮影
 14時25分 御親教終了
 14時30分 先駆大雲寺出発、引続き管長、総長出発

諷経後福性寺へ御親教記念品贈呈
 管長法話、総長、教学部長挨拶
 檀信徒謝辞 総代 栗林栄一氏
 記念撮影
 16時55分 御親教終了、見送りを受け福性寺を出発
 17時15分 投宿先「湯ノ花温泉 溪山閣」到着
 18時30分 薬石 管長猥下、宗務総長、教学部長以下本山、第二教区各寺院、第二教区相国会正副会長、各寺院総代ら計三十一名出席のもと懇親会

9月27日

午前7時45分 先駆福性寺到着
 8時 管長、総長到着、参道にて多数の出迎えを受ける
 到着茶礼
 14時45分 先駆福性寺到着
 15時 管長、総長、教学部長、福性寺吉田弘道住職、宗務支所長出頭

午前7時45分 先駆、出発、神昌寺へ向け出発
 8時15分 先駆神昌寺に到着
 同時刻 管長、総長出発
 8時45分 管長、総長到着、門前にてお出迎え
 到着茶礼
 9時 御親教開教、管長、総長、教学部長、神昌寺久山隆昭兼務住職、宗務支所長が出頭
 諷経後神昌寺へ御親教記念品贈呈

管長法話、総長、教学部長挨拶
檀信徒謝辞 総代 服部義明氏
記念撮影
9時55分 御親教終了、先駆神昌寺出発、引
続き管長、総長出発

10時45分 先駆蔵泉寺に到着
11時 管長、総長到着、お出迎えを受け、
参道の「夢窓国師腰掛石」にお腰
掛け

到着茶礼

11時15分 御親教開教、管長、総長、教学部
長、蔵泉寺早瀬祖順住職、宗務支
所長が出頭

諷経後蔵泉寺へ御親教記念品贈
呈

管長法話、総長、教学部長挨拶

檀信徒謝辞 総代 山口浩二氏

記念撮影

12時25分 御親教終了、蔵泉寺出発

14時10分 昼食後、本山帰着



御親教寺院紹介

光照寺

〒六〇一〇七五五 京都府南丹市美山町静原猪谷尻六
電話 〇七七一一七五〇七〇四

山号 温泉山

開創 元文年間(一七三六〜四一)

開山 周鉄清尊和尚

開基 川勝豊前守光照

本尊 阿弥陀如来

(平成十三年七月)

脇侍 木造川勝豊前守光照像

(室町時代末期・美山町文化財)

寺宝 川勝光照像(室町時代末期)

伽藍構成 本堂 庫裡

住職 荒木元悦(兼務)

年間行事 正月祈願 達磨忌

春夏彼岸会 施餓鬼会 涅槃会

●由来・沿革

光照寺の寺伝によると、元亀元年(一五七〇)川勝豊前守光照は今宮城に居住し、常に仏門に帰依して相国寺から周鉄清尊を迎えて入道納戒して、ついに一寺を創立して周鉄和尚を開山とした。法名は光照院殿川勝入道道伯居士という。旧本堂は元文中(一七三六〜四一)に再建されたものである。

堂内に高さ五十三センチの川勝光照の坐像がある。力法粗朴であるが全体がよく調和している。来迎の阿弥陀仏像は鎌倉時代に制作された旧物で、高さ一メートル玉眼入り寄木造りで、光背台ともに旧物で、京都風の美作、川勝氏の念持仏といわれていたが、十年程前に盗難に遭

い、平成十三年(二〇〇一)本堂新築にあわせて新調し開眼法要をする。

当山の檀徒は静原、栃原、今宮の三集落にあつ

て、寺の護持に努めている。川勝光照像は平成三年(一九九二)四月に美山町の文化財として指定を受けている。

大雲寺

〒六二二一〇〇〇一 京都府亀岡市旭町父畑五二
電話 〇七七一一二三四四九四

山号 龍峰山

開創 文禄四年(一五九五)

開山 龍舟

開基 不明

本尊 釋迦如来坐像

伽藍構成 本堂 庫裡 毘沙門堂

住職 中川弘道

年間行事 修正会(二月一日)

山門施餓鬼(八月九日)

布教活動 写経会 観音講

夏期坐禅会 地藏盆

●由来・沿革

大雲寺は、亀岡市旭町美濃田の東山麓に文禄四年(一五九五)に創建された。開山は龍舟和尚。龍舟和尚は興聖寺第三世泉溪和尚の法嗣であるため、当初は興聖寺(臨済宗興聖寺派本山 京都市上京区堀川寺ノ内)の末寺となった。

明治五年(一八七二)九月、地方の小学校創設に当たり伽藍境内地共に学校に充てるため、大雲寺は字父畑にあった元誓願寺の屋宇に移った。現今の堂宇は、大正八年(一九一九)一月に焼失したものを大正十一年(一九二二)千歳町小口にあった安藤家の旧宅を移築したものである。

福性寺

〒六二二一〇〇〇五 京都府亀岡市保津町子守九五
電話 〇七七一一二四一〇八七八

山号 佛光山

開創 万治元年(一六五八)三月

開山 泉溪和尚

開基 日周大徳

本尊 釋迦牟尼佛

脇侍その他 十一面千手観音 達磨大師

涅槃像 十六善神之像他

伽藍構成 方丈 庫裡 鎮守他

住職 吉田弘道

年間行事 涅槃会(三月十五日)

花まつり(五月八日)

山門施餓鬼(八月九日)

布教活動 法話の会

地域活動 地域社会福祉活動

歳末たすけあい托鉢

●由来・沿革

福性寺は往古、天台宗大光山定照院と称していたが、有名無実にして衰微甚だしきところ、大本山興聖寺開山・虚應禪師の法孫・大雲和尚が暫く当寺を護持し、万治元年(一六五八)三月、新たに寺を造立、大雲和尚を中興とし佛光山福性寺と改号する。

寛文元年(一六六一)、興聖寺第三世泉溪和尚を勧請開山とし、これより当寺は興聖寺末寺となる。天保五年(一八三四)六月焼失。のちの安政三年(一八五六)、当寺第十四世雄谷和尚の折りに檀施をもって再建された。

明治初年(一八六八)、興聖寺は末寺ともども大本山相国寺の所轄となるも、戦後昭和二十五年(一九五〇)、興聖寺は独立して、もとの本山となる。その折、当寺福性寺を含む二十数ヶ寺は、大本山相国寺の末寺としてとどまり現在に至る。

神昌寺

〒六二二一〇一〇二 京都府亀岡市東別院町神原堂ヶ谷二七
電話 〇七七一一二七一二六二〇

山号 昌法山
開創 嘉慶年間(一三八七〜八九)
開山 龍湫周澤和尚
開基 服部家
本尊 十一面観音菩薩立像
脇侍・その他 大権修利菩薩像 達磨大師像
伽藍構成 本堂兼庫裡 山門
住職 久山隆昭(兼務)
年間行事 盆経 施餓鬼会

して建てられたという。従って、創建以来六百有余年の寺である。

またこの龍湫周澤和尚は甲斐の武田氏の出身で、夢窓国師について修行を重ね、のち建仁寺、南禅寺、天龍寺などの住職も務めている。嘉慶二年(一三八八)九月九日遷化とあるから、この神昌寺を興したのは和尚の最晩年、八十八歳の頃と思われる。

しかし、昭和八年(一九三三)に火災が起こり、本堂・経堂(大般若経典が納めてあった)を焼失した。五年後に再建されて現在の堂宇となった。

●由来・沿革

神昌寺は相国寺の塔頭梅熟軒(明治初年廃絶)の末寺であったが、その後、慈照院(梅熟軒は慈照派)の末寺となった。元禄五年(一六九二)壬申六月二十一日に神昌寺より本寺あてに出された文書によると、建立は嘉慶年間(一三八七〜八九)、開基は龍湫周澤和尚で、神原村の氏寺と

蔵泉寺

〒六一六一〇〇一五 京都市西京区嵐山山下町一八
電話 〇七五―八七―一四九三九

山号 宝珠山
開創 元禄年間(一六八八〜一七〇四)
開山 梅窓院寂観實意尼和尚
開基 貞壽院妙相實全尼
本尊 十一面観世音菩薩
伽藍構成 木造単層入母屋造棧瓦葺一棟
住職 早瀬祖順
年間行事 涅槃会(三月十五日)
誕生会(四月八日)
開山忌(八月二六日)
成道会(十二月八日) 他

元禄期(一六八八〜一七〇四)に諄貞院殿花山院前左府定好郷の息女によって開山、再興された。足利期における尼五山の三子院の一として、慈受院尼門跡の末寺でもある。蔵泉寺の参道入口には夢窓国師の腰掛石が残っている。洛西観音霊場第二十八番札所。

●由来・沿革

寺伝によれば、室町時代に創建されたとも。また度重なる火災に遭い、山崎の合戦で敗れた明智光秀が隠れ住んでいた庵である。兵火や災火のためすべてを焼失し荒廃、後の江戸時代の



管長猥下御親教を拝して

光照寺総代 北川弘美

管長猥下の強い思いのもと、十年前から全国の末寺を回寺される御親教。いよいよ今年、京都に入られその一番に丹波の当寺に来ていただく光栄を得ました。

当日は素晴らしい秋晴れに恵まれ、檀信徒がお迎えする中、開口一番「懐かしいですナ。」とこやかに仰いました。十二年前の本堂落慶の際に、来寺賜ったことを覚えていただいていたのです。お話の中でも、当寺が木々に囲まれた豊かな自然環境の中で、美しく護持されていることを褒めていただきましたが、これもご住職の英断と力のお蔭で新しい本堂を再建することが出来、今回御親教が営まれ嬉しい限りでした。法話では、「ご本尊の阿弥陀如来は、量ることが出来ない非常に大きな仏様（無量寿仏）であることや、禅宗は体験の仏教で論理や理屈で尽くす

のではなく、行動する中で自分自身を会得することが大事である。」とお話いただきました。

「今日、国内外の世情が混乱している折『二元の対立はない、全部『いっ』なのだ。』と言われる開山・夢窓国師の教えをもとに対立感情を無くし、争いのない平和な社会を築かなければならない。」と力説されました。私たちも日常生活の中で、ついつい自我心が出て気まずい思いをすることがありますが、相手の意見を聞き「二元にわたらず、一つになる。」と言う貴重なお話を聞き、私たちも心の糧にしたいと思います。

また、核兵器廃絶・原発・憲法のことなど、時事問題についても平易なお言葉で解り易くお話しいただき有り難く拝聴致しました。

山木宗務総長様、矢野教学部長様からは、伽藍の護持と共に檀信徒の心の持ち方、構え方が

大事であることや光照寺の歴史の中で、本山もこのお寺も足利家と縁が深いお寺であるとお聞きしました。短い時間でしたが、本山と身近に結ばれていることの喜びと寺院との関わりの大切さを、改めて教えられた次第です。

当寺は檀家数も少なく、価値観の変化や後継

者問題など多くの課題がありますが、これを機にお寺と先祖のお守りに勤め、次代に継承する責務を新たにされた御親教でございました。この度の御親教に際し、ご来寺いただきました管長猥下をはじめ、関係者の皆様にご心よりお礼申し上げます。

大雲寺御親教を拝して

大雲寺総代 蔭山 暉

爽やかな秋空、黄金の稲穂が波立つ美濃田のここ大雲寺に、九月二十六日午後一時、本山相国寺より有馬頼底管長猥下御一行様がお着きになりました。こやかな笑顔で会釈される管長様を、檀信徒一同合掌でお迎えいたしました。

数年前から、この日を今か今かとお待ちしていました。気持ちよくお迎え出来るように下水

工事、畳の張り替え、駐車場の整備、参道の補修等、また直前には沿道の草刈、樹木の伐採等総代を中心に、檀信徒一同協力のもと進めてきました。当日一人でも多くの檀信徒の方々に出席していただけるよう、一軒一軒総代が手分けして案内に参りました。素晴らしいお天気でもあり、大勢の方に来ていただき、中には勤務を休んで

出席された方もあり大変嬉しく思いました。

茶礼の後、本堂に鳴り響く中、管長猥下が入堂され御本尊回向、開山先住回向、檀信徒各家先祖回向が執り行なわれました。私達も、摩訶般若波羅蜜多心経を唱和させていただきました。その後当山住職に記念品授与があり、続いて管長猥下の法話を拝聴致しました。法話の始めに「この庭園は素晴らしい。環境の整備が行き届いている。」と誉めていただき大変嬉しく思いました。住職一家が家族ぐるみで草引き、清掃、水やりをまめに管理していただいているお蔭であります。

続いてお釈迦さまのお言葉「山川草木悉皆成仏」をお話いただきました。「この世に存在するすべてのものは仏様のお姿である。光り輝いており殺生をしてはならない。この教えを大切に守っていくことが、仏教徒の勤めである。」管長猥下は核兵器廃絶の代表者の一人であり、政府が原発再開を決めたことに大変危機感を持っておられ、殺生となる原発をやめるよう強調さ

れた事に檀信徒一同強い感銘を受けました。又

「当山住職は現在禅文化研究所の事務局長の要職にあり、出張で寺を留守にすることもあるので、檀信徒の皆さんでしっかりお寺を守っていただきたい。」と話されました。事務局長の件については初耳であり、檀信徒として改めて住職を尊敬すると共に誇らしく思いました。

続いて山本宗務総長様よりお寺との関わりについて、矢野教学部長様より御親教の意義等について丁寧にお話していただきました。

その後、出席者全員で集合写真を撮りました。後日、素晴らしい今日一日の出来事を想い出すことでしょう。

最後になりましたが、有馬頼底管長猥下、本山の和尚様方の今後益々のご健勝をお祈り申し上げます。又教区の寺院様方、檀信徒の皆様にはお世話いただき大変ありがとうございました。

第二教区

御親教
感想文

福性寺御親教を拝して

福性寺総代 栗林栄一

今年の夏は異例の猛暑が続きましたが、御親教が近づくにつれ、やっと涼しくなった九月二十六日、住職はじめ、檀信徒の願いもかない、素晴らしい天気にも恵まれた中、管長猥下をお迎えて、無事御親教を終える事が出来ました。こと、先ずは御尽力下さいました皆様様に深く感謝申し上げます。

有馬頼底管長猥下同様が御到着され、参道を歩まれる管長猥下は、大傘の内より、いとも深い慈しみの笑顔で親しく会釈なされ、檀信徒一同、誰もが自然と心おもいで深く合掌してお迎え致しました。

茶礼の後、本堂に出頭の鐘が鳴り響く中、管長猥下導師のもと法要が始まり、我々檀信徒もともに「般若心経」を御唱和させていただきました。

御本尊回向に続き、御開山回向、更に檀信徒先住回向と執り行われ、続いて記念品の御贈呈を賜わり、有難く当寺院の至宝とさせていただきます事を肝に銘じた次第でした。

次に、管長猥下の御法話を拝聴致しましたが、最初の一言が「竹藪をぬけて石段に着き、更にもみじのトンネルをぬけて山門をくぐると、大変に明るくてしかも気持ちのよいお寺であったと、そしてこれも檀信徒の日頃の努力の結果だ。」とおほめのお言葉でございました事に、私共は大変に報われた気持ちになったものでございました。そして更に世界平和の尊さと、核廃絶へという大変に尊い事柄に御自身自らが意を尽くしておられる事につきまして、深く感銘を受けた事でございます。

又、宗務総長様の御挨拶の中では、家族の和

の大切さをお説き下され、現在の世相にとりま
しては本当に大切な事と身にしみて感じた事で
ございました。

そして更に教学部長様からは、檀信徒との窓
口になる重要な職の内容や、機関誌『円明』の編
集等のお話をいただき、日頃の御苦労を思い、
我々檀信徒もそれに報いるため力を尽くさねば
ならぬと切々と感じた次第でした。又、教育学
部長様は何年か前、当寺院先代の津葬の折、一度
おこしいただいていることをお聞き致しまして、
よりお近くに感じられた次第でした。

最後は管長猥下をとり囲むようにして、大変
にぎやかな中で、参拝者全員記念写真におさま
りました。私共と致しましては、さぞ生涯の忘
れられぬ記念になるものと大変うれしく思いま
した。

この日管長猥下と間近に接し、しかも親しく
慈悲深いお言葉を多々いただき、何ものにも変
え難い、しかも大変に意義深い時間でありまし
た。過ぎてしまえば何と短い時間であったと

改めて思った次第でしたが、それでもやつぱり、
もう二度とこんな機会を得ることはございます
まいと思つた時、やはりこの短い時間に得たも
のの大きさに、改めて深い感慨をおぼえたもの
でした。

参道をお帰りになる管長猥下を檀信徒全員で
お見送り致しましたが、握手を求める方々にも
終始にこやかに応じて下されたこと、これも深
く心に残ることでございました。

何はともあれ、この先は管長猥下がいつまで
も御健康ですこやかな日々をお送り下さいます
よう心から念じつつ、御親教の日を終らせてい
ただいたこととございました。

最後になりましたが、管長猥下、宗務総長様、
教育学部長様、それに御尽力いただいた寺院様
方々、本当に有難うございました。心から御礼
申し上げます。

合掌



第二教区
御親教
感想文

管長猥下御親教を拝して

神昌寺総代 服部 義明

平成二十四年九月二十七日、大本山相国寺よ
り御親教を賜りました有馬頼底管長猥下、宗務
総長山木康稔様、教育学部長矢野謙堂様、教育学
員の和尚様方、第二教区牛江宗道支所長様、他
皆様方、当神昌寺檀家一同を代表し改めて厚く
御礼申し上げます。御一行様に於かれましては、
当日は早朝より奥深い曲がりくねった山道をは

るばるお越し下さいました。緊張してお迎えす
る檀信徒に、管長猥下はお疲れのご様子も見
せにらず優しく会釈下さり、大変な有難さを
感じました。

当神昌寺は、小高い村落を見下ろせる良い場
所と常々思っておりますが、山門まではかな
りの上り坂、最後に石段となって居ります。管

長狹下を先頭にお歩き頂き、さぞお辛かったのではと大変案じておりました。御休息もほほどに、御法要をお始めになりました。御本尊回向、開山先住回向、檀信徒先亡諸霊回向を厳肅に執り行つて頂き、その後管長狹下、宗務総長様、教学部長様より温かな御法話を賜り一同靜かに拜聴させて頂きました。

それぞれの檀信徒が、思いを新たに日々御仏に手を合わせ、家族を大切に今日一日の無事を祈り、明るい家族を作る様努め、私達の住む集落の発展の為、仲良く精進努力していく事を信じております。

一昨年八月十五日のお盆に、兼務頂いております相国寺山内の慈照院住職久山隆昭様から今回の御親教開催の事を伺い、その準備と式次第の説明をして頂きました。「あの管長様がこの神昌寺に」と驚きのあまり声さえ出なかつた事を思い出します。自分に何が出来るのか、日が迫つて来るにつけ途方に暮れる毎日でございました。後日お寺に参りましたが、あまりの変わ

慈照院の末寺になったそうです。御本尊は、十一面觀世音菩薩でお厨子に納められております。

創建以来六百有余年の古いお寺でありましたが、昭和八年に火災が起こり本堂、経堂(大般若経典等が置かれておりました)が全て焼失し、五年後に建物は再建されましたが、特に慈照院先代住職の久山忍堂様に大変な御支援、御尽力を賜つたお陰で、今日の神昌寺が整いました。また、その他多くの物を慈照院様から授かり、大願を果た

り様にただただ驚き、整備の立派さに目を見張るばかりでございました。御住職様ご自身で、整備一切から何までお世話頂いた事を知り、何一つ協力出来なかつた自分の愚かさを感じずにはおれませんでした。いつもと変わらぬご自身で体を動かし、夜は亀岡市内に宿泊され、明るく朝から準備、と聞かされ私達は申し訳なく帰宅させて頂きました。この御恩は生涯忘れることができません。今回の管長狹下御親教と相まつて、神昌寺の格式が上がつたと思わせて頂いても宜しゅうございましょうか。この有難さを子孫にもしっかりと伝えてまいります。

実のところ、慈照院様よりご支援をいただきましたのは二度目でございます。当神昌寺の縁起については、御住職様が執筆下さいました「由来沿革」に依りますと、創建は一三八七〜八九年頃で、開山は龍湫周澤という和尚様で当地に氏寺として建てられたとの事です。元は相国寺の山内にあつた梅熟軒と云うお寺の末寺であつたとの事です、その梅熟軒が明治初年に廃絶し、

せた喜びはたいそうだった、と聞いて居ります。

当時の先祖と共に相国寺の末寺である事を誇りに思い、檀信徒一同この上ない喜びを感じずにはおれません。折がございましたら、遠くからでも再度管長狹下にお目にかかりたいと思います。管長狹下には、御尊体に留意されまして益々の御活躍を心より祈念申し上げますと共に、大本山相国寺の益々の御発展を御祈り致します。有難うございました。

第二教区
御親教
感想文

蔵泉寺御親教を拝して

蔵泉寺総代 山口浩二

厳しい残暑も過ぎ去り爽やかな秋晴れとなりました九月二十七日、有馬頼底管長狹下を御迎へし御親教が執り行なわれました。

ご入山に際しまして、当山山門前にあります

「夢窓国師腰掛石」に管長狹下もお座りになり一
同写真などを撮り、和やかなご入山でございま
した。

到着茶礼の後、御本尊回向、開山歴住回向に

続き、檀信徒先亡回向が厳かに執り行われました。当山住職、檀信徒一同有難く感謝申し上げます。次第でございます。

続いて管長猥下より当山住職に記念品を賜わり、さらに御法話を拝聴致しました。御法話の最初に、当山が嵐山の麓の少し高台にある事から京都市内が一望出来、特に東山連峰の美しい稜線が見渡せる事をお褒め頂き恐縮致しました。御法話では昨年の東日本大震災にお触れになり、福島御訪問の事や現地での法要など御体験をお話しになりました。また日頃から御尽力になっている反核平和の大切な事、更には今日ほど「不殺生戒」が大事な時はない事等お説きになりました。また「草木国土悉皆成仏」の意義について

諄々とお話しになり、一同感激し有難く拝聴させて頂いた次第です。

御法話に続き、山本宗務総長様、矢野教学部長様より御丁寧な挨拶を頂き有難いと感謝申し上げます。次第でございます。

八月十六日の五山の送り火には、当山から東山の大字が真正面に見えます。これからも住職、檀信徒一同当山の素晴らしい環境そして法灯を守ってまいれる所存でございます。

最後に、この度ご多忙の中お越し頂きました管長猥下、宗務総長様、教学部長様はじめ御一行様に心より感謝申し上げますと共に、御健勝をお祈り申し上げます。私共一同忘れられない思い出となりました。厚く御礼申し上げます。

平成二十四年度(雪安居)
相国僧堂 在錫者名簿

京都(南禅) 光雲寺徒
石川(国泰) 吉祥寺徒
和歌山(妙心) 観福寺徒

中川秀峰
山田慈康
足助厚堂

鳥根(妙心) 海禅寺徒
福島(妙心) 忠教寺徒
阿邊宗寛

『自分に向いた三本の指』

演劇塾 長田學舎

梶田明子

恩は石に刻み

怨は水に描け

受けて忘れず

施して語らず

奪い合えば足らぬ

分け合えば余る



——あなたが悪いと指さす下の三本は、自分を向いている——

去年のお正月でしょうか。母に届いた年賀状に書いてあった言葉です。母の仕事場の同僚の方が、愛知県豊田市の香積院というお寺の坐禅堂で見つけた言葉だそうです。母に見せてもらって、深い言葉だなあと感動しました。母と二人して、指さす形を作ってみて「なるほどなるほど、自分を向いてるね」なんて、感心していました。その時は、後に何度もこの言葉を思い出す羽目になるなんて思ってもいませんでした。

私には、可愛がっている後輩がいます。若い子が長続きせず、次々と塾を去って行く中で、彼女だけは一人頑張って、五年間続けてきました。穏やかでとても優しい子です。ちよつとちゃらんぽらんでいい加減なところがありますが、彼女なりに一生懸命お稽古をしていて、これからはとても楽しみな後輩でした。

その彼女が、春公演の後、突然お稽古に来なくなってしまうのです。いつも笑顔の彼女でしたが、人知れず、思うところがあつたのでしょうか。「秋公演には戻ってきます」という言葉を、私は信じて待ちました。

ところが、夏が過ぎ、秋公演までひと月をきつても、彼女が戻って来る気配はありません。それどころか、電話にも出てくれないのです。

秋の『町かどの藝能』公演は、おさだ塾にとって大事な公演で、それだけに準備も本当に大変です。十分に人手が足りている時ならまだしも、今回はいろいろな事情が重なり、特に人手不足でした。

「その事情が分かっているくせに、ちつとも戻って来ない、うんともすんとも言ってこないなんて！」

私は彼女を恨みました。膨大な量の作業を前にして、恨みと怒りに打ちのめされてしまいそうになった時に、はっと「自分に向いた三本の指」を思い出しました。

——私は自分の物差しでしか、ものを考えていないかもしれない。私がつと親身になって彼女のことを思いやっていたら、突然お稽古に来なくなるなんてことには、ならなかったかもしれない——

彼女に怒ってしまいそうになる度に、「三本の指」「三本の指」と自分に言い聞かせました。

彼女は高校一年生から五年間も、一番遊びたい時期に、拘束時間の長い劇団で頑張ってきました。彼女と同じ二十歳の頃を思い返してみれば、私だって、授業も適当にさぼって好きなことをして、気楽に遊んでいました。それを思えば、よくここまで頑張ってきてられたなと感心します。私は、彼女の心も状況も考えずに、今の私と同じものを期待してしまっていたのだと、反省しました。

今の若い人は、自分のプライベートの時間を大事にします。友達と遊びに行ったり、恋愛をしたり、服を買ったり……。そういう時間を犠牲にしてまで、「演劇がしたい！」と思う人が少なくなっただけかもしれません。ですが、演劇を本格的にやろうと思ったら、片手間では出来ません。



でも、そんな若い人たちでも塾に来てくれたら、私は嬉しいです。演劇は観るのも楽しいことですが、実際に関わってみて、演じてみてわかる楽しさがあり、そこには言葉で表現できないものがあります。若い人達は素晴らしい感性を持っています。その感性が、その中で活き活きと動き出したら、どんなに素晴らしいかと思うのです。

現代の若者たちに、演劇の楽しさ、奥深さをどう伝えてゆくかは、私たちの課題だなあと感じています。



公演の三日ほど前でしようか。ようやく彼女が帰って来ました。何しろ三日前ですから、もうお稽古も何も間に合いません。ですが、帰って来ないよりは、ずっとましです。思いつきり叱られると分かっていて、あえて帰ってきた彼女の気持ちは、認めてあげたいと思いました。

へらへら笑って「梶田さん、ほんとにすみませんでした〜」なんて言ってる彼女をみると、そのにやけたほっぺたを、ぎゅ〜とつねりあげてやりたくくなりますが、これが彼女なりの、精一杯の反省のしるしなのでしょう。なんだか憎めない。やっぱり可愛い後輩です。

人の心って、本当に分からないし、思い通りにならないなあとつくづく思いました。でも、分からないからこそ、人間って面白いとも言えるのです。けれど「面白い」だけではすまされないのが俳優です。脚本に書かれている人物を、自分の心と身体で生かしていかなければならないのですから、その人物の全てを識らなければなりません。自分の知らない人物の心と生活全てを、我が

事の如く理解して再現していくのが、俳優の仕事なのですから。その過程で俳優は悩み、苦しみ、喜びを得、そしてそれが生き甲斐となるのですから。

今日人々は、それぞれいろんな問題を抱えて生活しています。そんな中で、せめて人との交わりだけでも大切にして分かりあおう、思いやろう、という相手の心と立場を尊重することこそが大事なんだと思います。



特別寄稿

「釈宗演禅師ゆかりの古寺を訪ねて」

第四教区 若狭相国会会長 伊藤 彰

一昨年三月十一日の東日本大震災にて、東北地方の臨濟宗円覚寺派の末寺が被害を受けた。鎌倉に本山がある円覚寺派は、明治時代に福井県若狭高浜出身の釈宗演しやくそうえん禅師が管長をされており、若狭相国会、第四教区支所会及び高浜町有志寺院が合同で震災義援金を贈った。これが縁となり、今回鎌倉の釈宗演禅師ゆかりのお寺（東慶寺、円覚寺及び建長寺）での研修を二泊三日で実施した。参加者は第四教区和尚様八名及び若狭相国会会員五十二名の合計六十名で、次の日程で実施した。

- ・六月十七日(日) 若狭各地～横浜(泊)
- ・六月十八日(月) 横浜～東慶寺～円覚寺～建長寺～鶴岡八幡宮～江の島(泊)
- ・六月十九日(火) 江の島～長谷寺～鎌倉大仏～若狭各地

●六月十七日

朝七時、若狭各地よりバス二台で出発。数回、サービスイリアで休憩しながら夕方五時頃、横浜のホテルに無事到着。夕食で初めて全員一同に会す。会員同士は初めて会う人も多かったが、翌日からの研修等の話に花が咲いた。

●六月十八日

天候は晴れ、いよいよ待望の日である。鎌倉の東慶寺へ向けて出発。横浜のホテルを八時三十分に出発したが、九時三十分によく到着。鎌倉周辺や市内は道路が狭く車が渋滞。鎌倉は三方が山に囲まれており、鎌倉幕府が外敵から守りやすくするため、道路を整備しなかった名残であろうか。市内は、紫陽花等花めぐりの季節に入り、月曜日早朝にもかかわらず女性観光客が多い。

東慶寺(円覚寺の塔頭)は、元は鎌倉幕府八代

執権の北条時宗夫人が建立した尼寺で、江戸時代は縁切り寺(駆け込み寺)であったが、明治時代に入って縁切り寺法が廃止となり、釈宗演禪師が円覚寺管長を辞された明治三十八年に入寺され禅寺となった。以後、遷化された大正八年(六十一才)まで東慶寺の住職に就かれていた。紫陽花等に囲まれた石段を登り、山門をくぐり境内へ入る。

書院に上げていただき、井上正道住職より熱のこもった、かつユーモアを含めながらの東慶寺の歴史、釈宗演禪師の人物像、エピソード、そして釈宗演禪師の片腕となり世界に禅をZENとして広めた門下生の鈴木大拙、さらに交流があった夏目漱石についての話をうかがった。

書院室内を見渡すと、釈宗演禪師の写真が掛けられていたが、眼光の輝きや鋭さに驚き、三十四才で円覚寺の管長に選ばれたのがわかる

ような気がした。また、セイロン語で書かれた掛け軸、さらに「喫茶去」の墨蹟も掛けられており、本来の意味とは違うと思うが「遠路若狭からよく来たな。お茶でも飲んで行けや」と言われているようであった。まさに、釈宗演禪師の偉大さを知り、偲ぶことができたひと時であった。

続いて、本堂で釈迦三尊像、開山覚山尼像(北条時宗夫人)、水月堂では岩にもたれてくつろいだ姿勢をとられた流し目の水月観音菩薩にお参りした。最後に境内に出て、釈宗演禪師の墓にお参り。墓地の岩肌の「岩たばこ」が満開で、紫色の小さな花が夜空の星のようにいっぱい咲いており、お墓をお守りしているように感じた。滞在予定時間の約一時間があつという間に経過し、すぐ近くの円覚寺に移動。

円覚寺は、弘安五年(一二八二)に鎌倉幕府第八代執権北条時宗が建立した鎌倉五山第二位



釈宗演禪師の写真



釈宗演禪師の墓



円覚寺「舍利殿」

出来るため多くの人だかりができていた。急な階段を登ると中央に十二面観音像、その横に十六羅漢、十二神将が祀られていた。楼上からの眺めから、この円覚寺は山の中にあり緑深く静かで、いかにも禅修行に適したお寺と感じた。続いて、仏殿を案内してもらい本尊の宝冠釈迦如来に参拝。その後、方丈、夢窓国師作と伝えられる妙香池庭園を横に見ながら正統院(開山塔)へ移動。特別の案内で境内に入ると、右側には僧堂、真正面に舍利殿が目に入ってきた。僧堂では厳しい修行が続けられているとのこと、我々在家であつても何か緊張感を感じ、きりっと身が引き締まる感じがした。舍利殿は柱、組物、扇垂木等々の構造の特徴が中国南宋時代の禅宗建築様式を伝えており国宝とのことである。彩色がされていないため、その質素さが美しい。元々はその奥にある開山塔の仏光国師に対してお経を唱える昭堂であつた



円覚寺「三門」

のお寺である。開山は仏光国師(無学祖元)で、その法灯は仏国国師(高峰顕日)、夢窓国師(夢窓疎石)、そして普明国師(春屋妙葩)へと受け継がれ、これが我が本山相国寺の法灯のルーツであろう。釈宗演禅師は、明治二十五年(三十五才)〜三十八年までと、大正五年(五十八才)〜遷化された同八年(六十一才)までの二度にわたって管長に就かれている。境内を横切って走っているJR横須賀線の踏切を渡って総門をくぐり、石段を登ると三門が見えてきた。派手さはなく素朴でいかにも古さを感じた。これが夏目漱石の小説『門』のタイトルとして使われた三門かと想い、しばらく足を止めた。夏目漱石は、明治二十七年年末(正月明けの二週間、釈宗演禅師に参禅され公案に頭を悩まされたとのことである。この体験談を元に『門』は書かれている。今日は運よく三門の観音懺法の日で、楼上へ上がることが

が、仏舍利を供養することになったため舍利殿と改名されたとのこと。この舍利殿を回り、奥に祀られている開山仏光国師像にお参りし下山した。

次は建長寺へ移動。十二時半到着。建長寺は、建長五年(一二五三)に第五代執権北条時頼が建立した我が国最初の禅寺である。釈宗演禅師は、明治三十六年(四五才)に、円覚寺と兼務で管長に就かれています。円覚寺に比べ開けた土地にあり、総門、三門、仏殿、法堂、方丈が一直線に並ぶ伽藍は大きく、鎌倉五山の第一位を実感した。丁度、昼食の時間となり堂内にて精進料理、そして楽しみにしていた建長寺の元祖「けんちん汁」(我が家では、「けんちゃん」という)をいただき会員一同大満足であった。

宗務総長様の法話をいただいた後、境内を案内していただいた。仏殿と勅使門は、徳川秀忠夫人小督おごうの方の霊屋から移築されたとのこと

で、徳川幕府も鎌倉五山第一位として保護していたのがうかがえた。仏殿の前に、樹齢約七百六十年の柏びやくしんの古木が七本立っていたが、これは開山大覚禅師のお手植えと言われており、この古木が長い建長寺の歴史をすべて知っているであろう。勅使門にはところどころ金箔が使われ、きらびやか(桃山時代の作風)であり、禅寺としては少し違和感を感じた。更に、特別な案内で専門道場、昭堂、開山堂へ。専門道場では、日夜厳しい修行が行われており、坐禅堂には薄い布団が折りたたんで置かれており、いつでも坐禅ができる状態で修行の一面をかいま見ることができた。最後に開山堂にお参りをして建長寺に別れを告げた。

以上にて、予定の研修は終わり、鶴岡八幡宮へ参拝後、宿泊地の江の島に到着。夕食では本日の研修談義等で盛り上がり、会員相互の親睦を深め合った。



建長寺専門道場入口

●六月十九日

紫陽花で有名な長谷寺と鎌倉大仏を参拝し、台風の接近により急ぎ帰途についた。名古屋付近でかなり風雨がきつくなつたが、日本海側に出るとそれほどもなく、お陰様で事故もなく無事、若狭に帰着した。

最後になりましたが、今回の研修に当たりましては第四教区の善應寺五十嵐支所長様、同教区和尚様方には事前の研修寺院との調整、また当日の引率等で大変お世話になりました。お陰様で、我が郷土の誇りである釈宗演禅師ゆかりの古寺参拝、そして会員同士の親睦が深められ非常に良い研修でありました。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

○第五十九回 暁天講座

八月二日、三日の二日間、承天閣美術館二階大講堂ならびに大書院において、恒例の暁天講座が室町市政協力委員会との共催により開催された。本年も方丈工事中のため、坐禅と講演の会場は承天閣美術館二階大講堂となった。



養老孟司氏講演



有馬管長猯下法話

午前五時半より六時まで坐禅、その後一時間の法話。大書院にて粥が振る舞われ、七時二十分に解散となった。本年の講師は、二日が東京大学名誉教授で解剖学者の養老孟司氏をお迎えし、演題は「人と人のネットワーク」、三日が有馬頼底管長猯下で演題は「禅の山河」であった。両日合わせて二百五十人を超える参加者があり、盛況であった。

○「被爆クスノキ 夾竹桃観音菩薩像」開眼法要

八月二十一日、開山忌(月忌)ならびに後水尾院忌法要の後、法堂に於いて「観世音菩薩立像」の開眼法要が有馬管長猯下を導師に、一山総出仕のもと行われた。この観音像(高さ約二メートル)は、広島に投下された原子爆弾で被爆しつつも、生きながらえた樹齢約三百年のクスノキの幹上部を用いて制作されたもので、彫刻した仏師の中西平三氏兄弟も同じく被爆者である。原爆後の焦土に初めて花開いた夾竹桃にちなみ「被爆クスノキ 夾竹桃観音菩薩



開眼法要後挨拶する門川京都市長

薩」と名付けられた。この度、核廃絶・恒久平和・福島復興を祈念して相国寺に奉納され、法要後には列席した管長猥下、門川大作京都市長、森田嘉一京都府津国会会長、中西氏らの挨拶があった。

管長祝語は左の如し。

被爆楠製観世音菩薩開眼法要

祝語

萬水千山被爆塵 萬水千山、被爆の塵
木槿醒覚夜長眠 木槿醒覚す、夜長の眠
毫端一溜靈源水 毫端一溜、靈源の水
明眼観音自在仙 明眼観音、自在仙
大龍叟

○人權問題研修会

九月十日、ハートピア京都(京都市中京区)にて平成二十四年度の宗教法人関係者人權問題研修会(南部)が京都府と京都府宗教連盟の

共催で開催され、同連盟委員長でもある荒木元悦庶務部長が出席した。

○二十四年度 秋期特別拝観

九月二十五日より平成二十四年度の秋期特別拝観が開始され、法堂、開山堂、宣明(浴室)が一般に公開された。近年、紅葉の時期が遅くなったこともあり、拝観最終日は、十二月十五日まで延長された。二十五年春期特別拝観は、三月二十四日から六月四日の予定である。

○第十回 管長猥下御親教

九月二十六、二十七日の両日、平成二十四年度有馬管長猥下御親教が行われた。十年目を迎えた今回より京都府下第二教区の巡教となつたが、二十六日は、南丹市美山町の光照寺(荒木元悦兼務住職)、亀岡市の大雲寺(中川弘道住職)、同市の福性寺(吉田弘道住職)の三ヶ寺を訪問した。その後、郊外の湯ノ花温泉において第二教区主催の懇親会が開催され、同区

竹林寺牛江支所長以下和尚十一名、同区相国会正副会長、各寺総代らが出席した。翌二十七日は、亀岡市の神昌寺(久山隆昭兼務住職)と京都市西京区の蔵泉寺(早瀬祖順住職)の二ヶ寺を訪れた。二日とも初秋を感じる好天に恵まれ、本山より山本宗務総長、矢野教学部長、江上教学部員、荒木教学部員、二教区よりは桂徳院小出量堂住職が同行した。

(詳細は巻頭カラー参照)

○人權問題研修会

九月二十七日、みやづ歴史の館(京都府宮津市)にて平成二十四年度の宗教法人関係者人權問題研修会(北部)が開催され、荒木元悦庶務部長が出席した。

○秋季巡教

九月二十八から三十日まで、佐賀県小城市の「仏心会」(臨濟宗寺院で構成)の依頼により、本派布教師石崎靖宗師(四教区海岸寺住職)が

同会の平安寺(東福寺派)に拝請を受け出講された。

○第三十二回寺院婦人研修会

十月十、十一日の両日、第三十二回相国寺派寺院婦人研修会が行われた。十日午後十二時半参集、一時より大書院で本尊・開山各諷経後、山本宗務総長の開会挨拶と有馬管長猥下による訓示をたまわつた。記念撮影後には、教学部員指導のもと坐禅を行った。

また三時過ぎからは、昨年に引き続き関西大



坐禅をする研修会参加者

学文学部教授で相国寺史編纂室顧問の原田正俊氏に「葬儀と禅宗―中世から現代の問題まで―」という演題で講義を拝聴した。

翌十一日は修了式後、京都府大山崎町の東福寺派妙喜庵を特別拝観し、国宝の茶室「待



石清水八幡宮正式参拝

庵」などを見学、続いて八幡市の松花堂美術館・庭園を見学、昼食に松花堂弁当をいただいた後、男山の石清水八幡宮を正式参拝した。

今回は各教区より二十名の参加があった。

第一教区 澤 万里子(林光院)

山木佐恵子・山木喜要子(普廣院)

久山順子(慈照院)

荒木寛子・荒木寿絵(光源院)

草場容子(慈雲院)

佐分厚子(豊光寺)

江上正子(眞如寺)

第二教区

鈴木典子(長栄寺)

阪口美幸(無礙光院)

第四教区

本田節子(園松寺)

田中智津子(円福寺)

石崎典子(海岸寺)

五十嵐多賀子(善應寺)

第六教区

矢野志保(南洲寺)

芝原由紀子・芝原聖子(感応寺)



松本三津子(光明寺)
松下知子(永徳寺)

○東京椿山荘三重塔修復落慶記念茶会
ならびに記念法要

十月十六日から十七日にかけて東京都文京区の椿山荘(藤田観光株式会社所有)内にある三重塔「圓通閣」の修復落慶、聖観世音菩薩入仏開眼法要(円明第九十七号参照)から一周年を迎えたことから、記念の茶会ならびに法要が行われた。十六日の記念茶会では、有馬管長



三重塔前での法要 (写真提供:藤田観光株式会社)

猊下が濃茶席席主をつとめられ、約二百三十名の参加者があった。翌十七日には、三重塔聖観世音菩薩立像前において「圓通閣」修復落慶一周年記念法要が厳修され、管長猊下導師のもと鈴木承天閣美術館事務局長、矢野教学部長、久山財務部員、江上教学部員、佐分庶務部員が出頭した。



記念茶会濃茶席 (写真提供：藤田観光株式会社)

焼香、奠供十八拜が行われ、引き続き檀信徒、本派寺院の順に一堂し、管長猊下導師のもと出班焼香に引き続き楞嚴呪行導が厳修された。管長香語は左の如し。

開山忌毎歳忌香語

乃祖門牆幾万尋 乃祖の門牆、幾万尋
遺風起振古叢林 遺風振い起こす、古叢林
年々一向焼香日 年々一向す、焼香の日
千歳令人恨轉深 千歳人をして、恨み轉深らしめん
頼底九拜

定中昭鑑

○臨黄合議所移動理事会

十月二十五日、山梨県甲州市の向嶽寺において臨黄合議所理事会・総会が開催され、内局より山木宗務総長が総会・総長会に出席、久山財務部員と荒木教学部員が各部長会に代理出席した。

○開山忌

開山夢窓国師の毎歳忌法要が、十月二十日(宿忌)、二十一日(半齋)の両日にわたり厳修され、第四教区より百一名(寺院十一名)、第五教区より四十一名(寺院一名)、第六教区より五十六名(寺院四名)の団体参拝があった。

二十一日は、九時より法堂において韜光室老大師導師のもと猊下導師にはじまり、諸堂

○天龍寺開山忌

十月三十日、京都市右京区の本山天龍寺において開山夢窓国師毎歳忌半齋法要が厳修され、相国寺より山木宗務総長以下計九名が出頭した。

○禅文化研究所理事会

十一月二日、禅文化研究所理事会が同所にて開催され、佐分財務部長が出席した。

本山維摩会

毎月第一・第四日曜日開催(※一月第二、八月第二、四月、十二月第四日曜日は休会です)

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。第二次大戦中

会 場…相国寺 本山大書院
時 間…午前九時より十一時迄
内 容…坐禅(九時より十時半)
法話(十時半より十一時)

より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催されていましたが、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至ります。

注意事項…当日は九時までに必ずお越しください。十人以上で参加の際は、前日までに必ず

維摩会の名称の由来は、『維摩経』の主人公である維摩居士からつけられたものです。

電話(〇七五二二三一〇三〇一)にてご連絡をお願い致します。

尚、満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。初めての方には、別室で坐禅指導を行います。

威

儀：楽でゆったりとしたものが望ましく、肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

東京維摩会

(東京別院・庫裡事務棟で再開されました)

平成二十五年の開催日は左記の如くである。

有馬管長坐禅会

一月十九日(土) 二月九日(土)
三月九日(土) 四月十三日(土)
五月十一日(土) 六月八日(土)
七月十三日(土) 九月十四日(土)
十月六日(日) 十一月九日(土)
十二月十五日(日) (八月は休会です)

会場：東京別院・庫裡事務棟一階

時間：午前十時半より正午頃迄

内容：『寒山詩』提唱、坐禅、茶礼

威儀：服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

小林老師坐禅会

一月二十六日(土) 二月二十三日(土)
三月三十日(土) 四月二十日(土)
五月十八日(土) 六月十五日(土)
七月二十日(土) 八月十日(土)
九月二十八日(土) 十月二十六日(土)
十一月十六日(土) 十二月二十一日(土)

時間：午後一時より二時半迄

内容：『臨濟録』提唱、坐禅、茶礼

威儀：袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。



東京維摩会 新会場 庫裡事務棟外観



第一教区

○相国寺塔頭光源院行者講紀三井寺参拝

毎年六月に大峰山に入峰修行する相国寺信心教社第一号連山組にて、光源院住職荒木元悦和尚は、住職就任以来昨年六月入峰で四十五回目の入峰修行を無事終えられた。昨年六月八日午前九時より、光源院行者堂において前行、道中安全、家内安全の祈願を、役員及び今回の院号授与者の他多数の参拝者で行う。翌日九日午前六時、堀川今出川を小雨降る中出発。貸切バス二台に参加者七十三名と共に新緑の大和路を一路洞川どうがわに向う。十時すぎ洞川西村清五郎旅館に到着、早めの昼食後直ちに入峰に向う。梅雨前線で大雨の中、新客と共に山上に向う。途中新客のみ全員西の覗のみ行をし、その他の裏行場は危険なため中止

となる。行終って全員本堂にて勤行参詣後無事下山。西村清五郎旅館にて宿泊。

翌十日午前五時半起床、六時竜泉寺において新客全員と共に般若心経をとこなえながら水行をする。終って朝食を取り洞川を出発。一路紀州西国観音霊場第二番札所紀三井寺に向う。到着後ガーデンホテルはやしにて昼食、引き続き、紀三井寺本堂にて全員でおまいりし、終って自由に境内を参観。平成二十年五月落慶法要が営まれた日本最大の総漆金箔寄木立像千手十一面観音菩薩像を参拝する。この像は京都西山に工房を構える大仏師松本明慶師の作である。(※)その後、紀州路を経て「名勝」養翠園やうすいゑんを觀賞する。ここは紀州藩主の別邸で二代藩主徳川光貞が元禄十一年に造営し、歴代藩主が使用した。庭園内の池は海水を取り入れている。今は和歌山市の所有である。

参拝後、双子島荘に向かい五時半小宴後一路京都へ。午後八時堀川今出川に無事全員帰着、万歳三唱をして目出度解散する。

(※)尚、光源院住職が兼務する丹波二教区の光照寺の現在の本尊阿彌陀如来像も松本明慶仏師の作である。

◆紀三井寺

紀三井寺は、今から千二百年あまり前(宝亀元年、七七〇年)唐僧・為光上人によって開基された。為光上人は、仏教の志篤く、唐(今の中国)より到来され、諸国を巡り、たまたま紀州名草山の麓に一宿した折、山の頂上付近が白く光っているのを不思議に思っ上がって見ると、金色に輝く千手観音様に出会われた。この地が、ご仏縁深き霊場と悟られた上人は、自ら一刀三礼のもとに十一面観音様の尊像を彫られて、これを草庵に安置し、この紀三井寺が開創された。



大峰山 紀三井山金剛宝寺 平成24年6月9日入峰 連山組 73名

正式な寺名は「紀三井山金剛宝寺護国院」と云い、山内から湧き出す三つの霊泉(清浄水・楊柳水・吉祥水)から「紀三井寺」という名前で呼ばれている。

第二教区

○相国会支部総会

例年のとおり相国会支部総会が、六月二十三日午前十一時より竹林寺に於て二十四名が出席して開催された。

事業報告・会計報告等が行なわれた。今年から御親教が始まるに伴って、多くの質問があった。総会に引き続き懇親会となった。和やかな雰囲気の中、午後二時半に散会した。

○管長猥下御親教

管長猥下の御親教が、九月二十六日・二十七日の両日にわたって、教区下五ヶ寺(光照寺・

大雲寺・福性寺・神昌寺・蔵泉寺)に於て厳修された。各寺、檀信徒の協力を得て万全の準備がなされた。二十六日夜には、亀岡湯の花温泉にて、盛大な懇親会がもたれた。

(詳細は巻頭カラー参照)

第三教区

○南苑寺復旧工事、並びに懇親会

去る平成二十三年十一月二十八日、兵庫県姫路市にて南苑寺(小野塚越山住職・鳥取県三朝町)で発生した落石事故からの復旧に関して相談する会、並びに懇親会が開かれた。同月に境内裏山からの落石により隠寮が被害を受けたが、本山からは山木宗務総長様、矢野教学部長様に臨席たまわり、第三教区各住職を交えて支援することを話しあった。

その後、修復工事が行われ、平成二十四年三月に無事復旧完工した。



前列左から二人目より 南苑寺御住職、山木宗務総長、矢野教学部長ほか第三教区各住職



総会の風景(於 竹林寺本堂)

第三教区は、各寺院が全国の広い範囲に散在しており、一堂に会する機会を作るのが難しかったが、平成二十三年九月二十九日に南苑寺で行われた有馬管長猥下御親教の際に集まったのを縁として、今回の懇親会でも同教区の住職がほぼ全員集まり、親睦や協力体制が深まっている。

第四教区

○若狭相国会鎌倉研修旅行

六月十七日から十九日まで、若狭相国会研修旅行を実施した。近年、若狭相国会では、全体での研修旅行が懸案となっておりましたが、この度、釈宗演禪師（福井県高浜町出身）の遺徳を偲び、その業績を学ぶ鎌倉研修旅行を、二泊三日の行程で執り行いました。東慶寺（円覚寺派）井上正道御住職、大本山円覚寺で御案内下さいました和尚様方、大本山建長寺の高井

正俊宗務総長様始め、お世話いただいた皆様には深く御礼申し上げます。有り難う御座いました。（詳細は47ページ参照）

○若狭相国会役員会

六月三十日、鎌倉研修旅行の反省会を実施。

○宗務支所 兼務調整説明会

七月四日、養江寺において、支所長、副支所長、養江寺役員が集まり、兼務住職変更について協議した。

○宗務支所 支所会

七月二十日、善應寺において、お盆行事調整及び本山開山忌団参について協議した。

○宗務支所 兼務調整説明会

九月十六日、善應寺において、支所長、副支所長、常津寺役員が集まり、兼務住職変更について協議した。

○宗務支所 兼務調整説明会

九月十七日、真乗寺において、支所長、副支所長、西林寺役員が集まり、兼務住職変更について協議した。

○本派寺院婦人研修会

十月十日・十一日、相国寺にて開催された寺院婦人研修会に、教区より寺院四名が参加した。

○宗務支所 開山毎歳忌団参

十月二十一日、相国会会員、住職、総勢一一六名が参拝。

本山法要参拝後、大津プリンスホテルにて昼食、中華バイキング料理をいただき、大本山永源寺（滋賀県東近江市）に参拝。ほんのりと色づく永源寺で、山田一道宗務総長より御法話を頂戴いたしました。有り難う御座いました。



永源寺にて法話を聞く参加者

第五教区

○西光院先住寺院逝去

六月十二日、出雲市斐川町の西光院先代住職(第十世故金森大超師)寺院の金森貞枝氏が百四歳で天寿を全うされた。氏は百歳を過ぎても、かくしゃくとし教区寺院の範であった。

○出雲相国会夏休み坐禅会

七月二十六日に、恒例の「夏休み親子坐禅会」を西光院本堂で開催した。子供三十六名、大人十六名、役員を合わせて約七十名が参加。西光寺(斐川町)・三浦隆心住職、富田寺(同)・加藤文保住職の指導で坐禅。坐禅終了後、坐禅和讃を唱和し子供達には参加証が手渡された。休憩後、今回はウォークラリーを西光院周辺で行い、大いに楽しんだ。

○西光院第十二世 金森大融新任職晋山式

十一月十一日、西光院にて金森則融住職退

山式、並びに金森大融新任職晋山式が厳修された。当日は教区和尚の他に、地福寺龍睡窟老大師(鳥取市・妙心寺派)、一畑薬師で知られる一畑寺より飯塚大幸管長(出雲市・妙心寺派)、妙心寺派宗務総長の松井宗益師(出雲市・本性寺)を始めご尊宿方計三十七名に御出頭御随喜たまわった。

新任住職は昭和四十四年生まれ、正眼短期大卒業後に西宮市海清寺専門道場に掛塔、一畑薬師に勤務を経て同寺副住職として、住職を支えてこられた。今後の活躍が期待される。

また、閑栖となられた則融師は、昭和五十六年より三十一年間の長きにわたって住職として、よく寺院の護持発展に尽くされた。

(詳細は巻末カラー90ページ参照)



7月26日 夏休み親子坐禅会

第六教区

○広護寺第三十世 井上宗光新任職晋山式

十月二十六日、広護寺(宮崎県串間市)において井上宗光師新任職就任の「晋山式」と先代住職故井上義堂和尚大祥忌(三回忌)法要が、厳修された。

第六教区各寺院をはじめ、第三教区より福圓寺(兵庫県姫路市)大谷昌弘師、法雲寺(同赤穂郡上郡町)大塚月潭師、長谷寺(三重県津市)高山宗親師、並びに東福寺派より莊嚴寺(福岡市)山崎玉宗住職、同副住職ら遠方よりのご出頭をたまわり、総代役員、親族多数が見守るなか、楞嚴呪行導の法要が営まれた。尚、前日二十五日に宿忌法要が厳修された。

新任住職は昭和五十六年生まれ、本派専門道場に掛塔後、同寺副住職として住職を支えておられたが、先住の遷化もあり寺の護持に務めておられた。今後、益々の活躍が期待される。

(詳細は巻末カラー91ページ参照)

◆研修会

【相国寺研究】

平成二十四年後期研修会は、「相国寺研究」として相国寺史編纂室研究員の中井裕子氏による三回の講座を承天閣美術館二階講堂において開催致しました。

三回の講座の内容は次の通り

「室町時代の相国寺住持と塔頭——蔭涼軒日録を中心に——」

講師：相国寺史編纂室研究員 中井裕子氏

- 第一回 十一月十三日(火) 「室町時代の相国寺歴代住持」
- 第二回 十一月二十日(火) 「応仁の乱後の相国寺復興に尽力した住持たち」
- 第三回 十二月 三日(月) 「塔頭の院主」

いずれも午後一時三十分から三時まで講義、その後質疑の時間が設けられました。



【僧侶に必要なリーガルマインド、僧侶のための法律知識】

前号(第九十八号)でもお伝えしたように、櫻井園郎氏(東京基督教大学特任教授)の連続講座「僧侶に必要なリーガルマインド、僧侶のための法律知識」が引き続き開催中です。

昨年夏以降の終了分と今後の日程を掲載致します(第一回―四回は前号参照)。

また、開催日が変更になっておりますので、ご注意ください。

平成二十四年 八月二十三日(木)(第五回)民法法四 〈終了〉

「寺院の忘れ物・預り物と不測の事故にどう対応?」 〈事務管理と不法行為〉

「檀家の家族問題」 〈婚姻、離婚、親子、養子、特別養子、禁治産、後見〉

九月六日(木)(第六回)民法法五 〈終了〉

「高齢者の介護と福祉」 〈扶養義務、成年後見〉、「相続と遺言に関する基礎知識」

十月二十五日(木)(第七回)民法法総括 〈終了〉

十一月九日(金)(第八回)刑事法 〈終了〉

「僧侶なら知っておきたい」 〈刑法で寺院や宗教活動が守られている〉

「僧侶なら知らない」と 〈刑法で守られる信徒、刑法で禁じられる行為〉

「突然来られても驚かないために」 〈逮捕とは? 刑務所・少年院とは?〉

十一月二十九日(木)(第九回)行政法一 (終了)

「僧侶への課税」↳所得税と贈与税に関する基礎知識」

「寺院への課税」↳法人税と固定資産税に関する基礎知識」

「宗教活動への課税」↳法人税と消費税と印紙税に関する基礎知識」

十二月六日(木)(第十回)行政法二 (終了)

「都市計画法と寺院」↳境内建物の建築規制。建築基準法・消防法」

「墓地埋葬法と寺院」↳墳墓と納骨堂と墓地と霊園、水葬・自然葬・樹木葬」

平成二十五年

一月二十三日(水)(第十一回)行政法三

「宗教法人とは何か?」↳他の法人と宗教法人の決定的な違い」

「区別が必要な、宗教団体と宗教法人」↳両者の混同が混乱を招く」

一月三十日(水)(第十二回)行政法四

「国法と宗法」↳両者の位置づけと意味・効力。知られていない宗法の問題」

「寺院と文化財」↳宗教活動と文化財の保護にからむ権利と義務」

二月七日(木)(第十三回)行政法総括

二月二十一日(木)(第十四回)知的財産法一

「『境内では撮影禁止』は有効か?」↳違反して撮影した写真はどうか?」

「境内建物を撮った写真」↳著作権、意匠権、パブリシティ権、宗教的権威」

「僧侶を撮った写真」↳肖像権、パブリシティ権、プライバシー、著作権」

「信徒・参拝者を撮った写真」↳肖像権、プライバシー、パブリシティ権」

「説教と著作権」↳録音・録画・筆記・印刷・出版・放送・ネット掲示」

「特許権・実用新案権・意匠権・商標権・氏名権・パブリシティと著作権」

三月二十一日(木)(第十五回)社会法一

「寺院の広告・CMは禁止?」↳知られていない新聞広告基準・民間放送基準」

「宗教活動と商取引の狭間で」↳特定商取引法・風俗営業法などの適用」

四月 日()日程未定(第十六回)社会法二

「宗教活動と社会問題」↳青少年健全育成条例・暴力団排除条例など」

「国際関係と宗教」↳旅券法、出入国管理法、外国人登録法、関税法など」

五月 日()日程未定(第十七回)憲法

「知っておきたい基本的人権」

「『信教の自由』とは何か?」

「寺院に意味のある『罪刑法定主義』『租税法律主義』」

いずれも、講義は午後一時三十分～三時、質疑は午後三時十分～四時三十分、承天閣美術館二階講堂に於いて開催です。

受講希望者は、氏名、宗派または職業、住所、電話、メールアドレス明記の上、相国寺教化活動委員会までお申し込みください。相国寺ホームページからもお申し込みできます。

尚、講師の都合によりやむを得ず日程を変更することがあります。又、本年四月以降の日程未定分に関しては、決まり次第ホームページに掲載致します。

これまでに行った研修会の講義録を
ご希望の方は、手数料一千元を添え、
下記の相国寺宗務本所内教化活動委員
会宛にお申し込みください。

申込先 相国寺教化活動委員会

〒600-2108 八九八
京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一
電話 〇七五-二二三-一〇三〇一
FAX 〇七五-二二二-三三九九
ホームページ (http://www.shokoku-ji.jp)

<p>大本山相国寺御用達</p> <p>御法衣・仏具</p> <p>(株)後藤利法衣店</p> <p>〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル 電話 (075) 221-4587 FAX (075) 223-0094 フリーダイヤル (0120) 014587</p>	<p>精進料理</p> <p>〒604-8356 京都市中京区大宮通錦上ル 電話 〇七五-八二二-一三八七二</p> 
<p>大本山相国寺御用達</p> <p>庭園 設計・施工</p> <p>樋口造園(株)</p> <p>〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル 電話 (075) 462-1385 FAX (075) 464-6120</p>	<p>大本山相国寺御用達</p> <p>精進料理</p> <p>矢尾 治</p> <p>〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358 電話 (075) 841-2144 FAX (075) 841-2110 http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp</p>
<p>總本山御用達</p> <p>藤安田念珠店</p> <p>本店・〒604-8072 京都市中京区寺町六角角 電話 (075) 221-3735 (代表) 東京・札幌・福岡 各営業所</p>	<p>文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 設計・施工 数寄屋建築</p> <p>澤甚株式会社 澤野工務店</p> <p>本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入 TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775 山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)</p>
<p>貴重な御法衣の御用は 大本山相国寺御用達</p> <p>後藤新助法衣仏具店</p> <p>〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地 電話(代表) (075) 462-3915番 ファクシミリ (075) 462-3616番 URL http://www.rinzai.jp E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp</p>	<p>大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 (株)北村誠工務店</p> <p>〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45 電話京都 (075) 441-0563 FAX京都 (075) 441-0571</p>



京都全日空ホテルは
2013年2月1日(金)から
「ANAクラウンプラザホテル京都」に
名称を変更いたします



ご予約・お問合せは **TEL 075-231-1155**
<http://www.ana-hkyoto.com>

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

ADACHI 足立電気工業株式会社

〒601-8045
京都市南区東九条西明田町34-21
TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767
E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp



社寺庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理



長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

印刷を極め、印刷を超える——

ヨシダ印刷グループは、生産力・機動力・開発力・発想力を結合し、
お客様の最適な情報伝達のために、
なくてはならない製品・サービスを提供する事で、
社会の発展に貢献します。



ヨシダ印刷株式会社 京滋営業所

〒604-8277 京都市中京区西洞院通り御池下ル三坊西洞院町572-4 NOA高松殿ビル6階 TEL.075-252-5421
[本社] 金沢 [支店・営業所・工場] 東京・金沢・大阪・京都・富山・福井 URL <http://www.yoshida-p.jp/>

Your Global Lifestyle Partner

～お客様の感動を創造します～

国内旅行

宇宙旅行

海外旅行

大会幹旋



JTB西日本団体旅行京都支店

〒604-8152 京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町670 京都フクトクビル5階
TEL:075(241)0139 FAX:075(255)6564
(営業時間 9:30～17:30/土・日・祝日休業)

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…
京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行
 **京都銀行**
<http://www.kyotobank.co.jp/>

あなたの、豊かな
人生のために。

三菱UFJ信託銀行のライフプラン・コンサルティング

三菱UFJ信託銀行は資金運用をはじめとする、
資産全般にわたる運用のご相談を承ります。

資金の運用

不動産のご相談

資産の管理・承継



三菱UFJ信託銀行 京都支店

届出第6号 (一社)不動産協会会員 (一社)不動産流通経営協会会員
(公社)首都圏不動産公正取引協議会加盟

〒600-8006
京都府京都市下京区四条通高倉東入立売中之町85

TEL.075-211-7161

電話受付/平日9:00~17:00(土・日・祝日等を除く)



二条城前のロケーション
温かいおもてなしでくつろぎのひとときを…

お食事・ご婚礼・各種パーティーに
ぜひご利用下さいませ

京都国際ホテル

〒604-8502 京都市中京区堀川通二条城前
TEL.075-222-1111(代)
<http://www.kyoto-kokusai.com>

www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達

香老舗 **松榮堂**

京都本社/京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595
東京支店/東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969
札幌支店/札幌市中央区南8条西12丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店・大阪本町店・銀座店 人形町店 青山香房・札幌店



先人たちの賜物を伝えていく仕事。

デジタル再製画「伝匠美」www.dnp.co.jp/denshoubi/

DNP

大日本印刷株式会社 www.dnp.co.jp

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷
華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

各大本山御用達

橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話 (075) 221-0934 番 振替京都 01090-4-3476

抹茶

全国並びに関西茶品評会第一位
自園茶農林水産大臣賞29回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶 萬年乃明茶

御薄茶 常光



大本山相国寺御用達

宇治 久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合わせ(0774)200909
・ジエイアール京都伊勢丹店
地下一階銘茶コーナー
・西洞院店 茶房「元庵」水曜休祝営業
京都市中京区西洞院通御池下ル
電話(075)2230909
【取扱店】全国有名茶店・茶道具店
http://www.marukyu-koyamaen.co.jp

大本山相国寺御用達

京表具

絵画・墨跡・織物・修理・一般表具一式
宗紋襖紙・御殿引手 発売元

こう えつ あん
浩悦庵

古文化財保存修理研究所
矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通り丸太町上る今薬屋町318
TEL(075) 254-6021(代)・FAX(075) 254-6022
東京営業所 〒203-0014 東京都東久留米市東本町9-9 TEL・FAX(0424)72-6239

http://www.koetsuan.com E-mail:office@koetsuan.com

創業明暦年間



株式会社 七味家本舗

〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221
TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352

ゴヨウハシチミヤ
☎ 0120-540738

9:00~18:00 (冬季は9:00~17:00)

<http://www.shichimiya.co.jp/>



● 編集後記 ●

本派ご尊宿、並びに相国会会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。『円明』第99号をお届けいたします。本号は、第二教区御親教特集号となります。巡教に参りました各寺院では、ご住職はじめ檀信徒の方々に大変お世話になりました。改めて御礼申し上げます。また、今号の教区便りでは一教区から六教区まで全教区からのお便りを頂きました。各教区での盛んな活動が感じられます。

『円明』もいよいよ次号で昭和38年の創刊号以来第100号の節目を迎えます。つきましては相国会会員の皆様に、右記ご案内のごとく寄稿をお願いいたします。どうか奮ってお寄せ頂きたいと存じます。教学部では、隔年で開催しております「相国会本部研修会」を「円明第100号記念」といたしまして、更に内容を充実させた研修会となるよう現在企画中です。

一昨年より着工しておりました相国寺「方丈」の解体修復も、本年秋頃には修復落慶の見込みです。文化4年(1807)の創建以来、二世紀を経た建造物が面目を一新いたします。会員の皆様も、研修会や拝観その他で相国寺にお見えの際は、その様子を目にさせていただけることと存じます。

どうか本年も宜しくお願い申し上げます。

(矢野謙堂 記)

えん みょう 円明 平成25年正月号(第99号)
平成25年1月1日発行(年2回)

編集 / 相国寺派宗務本所 教学部

発行所 / 大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591
URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)

制作・印刷 / ヨシダ印刷株式会社 カット / BUN



相国会会員の皆様 『円明』第100号 原稿募集!

相国会会員の皆様から原稿を募集いたします。ふるって投稿下さい。

掲載：『円明』第100号(平成25年8月1日発行予定)

原稿題：『『円明』第100号によせて』

(これまでの『円明』を読んでの感想や、本山・各寺院との関わりなどにもふれていただくと結構です)

文字数：400字詰め原稿用紙 2~3枚

(誌面の都合上、この枚数でお願い致します)

写真画像：1枚まで(ただし内容に沿った画像であること)

締切り日：平成25年4月10日



申し込み方法・申込先

○デジタルデータの場合

word等のテキストデータ、画像(jpeg画像に限る)添付の場合の送信先
E-mail: kyogaku@shokoku-ji.jp

○FAX送信の場合：075-212-3591

○ご郵送の場合：〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701

いずれも「相国寺派宗務本所 教学部『円明』編集部宛」まで

○原稿には、「お名前・ご住所・電話番号」を明記して下さい。

○いただいた原稿は返却致しませんが、紙焼き写真の返却が必要な場合は、裏面に「要返却」と記入して下さい。

○個人情報は『円明』編集、またそれに伴う連絡にのみ使用し、それ以外の目的には使用致しません。

○応募多数の場合は、第101号以降に掲載させて頂きまますので、ご了承下さい。

問い合わせ先：相国寺派宗務本所 教学部 TEL 075-231-0301

大涅槃図

明時代 鹿苑寺蔵

縦一八一・五×横一六三・〇 cm

涅槃図とは釈迦の肉体的な死滅（紀元前三八三年・諸説有り）を表した図。
涅槃とは「吹き消す」の意味で、滅度・寂滅とも訳され、一切の煩惱の繫縛から脱し、それによる業や輪廻が無くなった状態をいう。大乘仏教においてはこれを無余涅槃と呼び、仏法の永遠性を象徴する事跡として特に重んぜられている。

釈迦の弟子達を始め、老若男女他多くの生類が釈迦入滅に嘆き悲しむ姿が描かれている。釈迦は北頭西面・右脇が下で、沙羅双樹の中。そして必ず満月。また右上部には涙を流す麻耶夫人（釈迦の母）と阿那律（釈迦の十大弟子）が描かれている。麻耶夫人は釈迦の危篤を聞き、忉利天から阿那律の誘導で飛雲に乗って妙薬を持ち来たり、釈迦の枕元に向けて投下したが、沙羅の枝に引っかかり間に合わなかったと云う。（左上部の赤い袋）現在医者が患者に薬剤を与えることを「投薬」と呼ぶが、由来は実にこの事柄とされる。母が我が子の病をなんとか救おうとする深い慈愛を表している。

この地はインド北部の拘尸那竭羅。釈迦の四大聖地の一つ。仏教寺院では毎年二月十五日若しくは三月十五日に涅槃会法要が厳修されている。

* 忉利天Ⅱ六道（上から天上界・人間・修羅・畜生・餓鬼・地獄）の天上界の一種。
麻耶夫人は釈迦を生んで七日目に死去し、この忉利天へ転生した。

解説／承天閣美術館 事務局長 鈴木景雲



麻耶夫人



葉袋



承天閣だより

Jotenkaku Museum

若冲・応挙の至宝 京都相国寺・金閣・銀閣名宝展

於新潟市會津八一記念館・新潟市歴史博物館(會津八一作品と交換展)

平成二十四年九月二十九日から十一月二十五日まで、新潟市あいつやいち會津八一記念館と新潟市歴史博物館の二館に於いて「若冲・応挙の至宝 京都相国寺・金閣・銀閣名宝展」が開催された。承天閣美術館に収蔵されている相国寺・鹿苑寺・慈照寺に伝来する伊藤若冲・円山応挙等の絵画の名作、野々村仁清造色絵茶碗や長次郎造赤楽茶碗他茶道具の名品等約一〇〇点を出品展示。期間中地元近郊の多くの絵画ファンや茶道ファン約三万人が訪れ大いに賑わった。展示会場へは承天閣美術館鈴木局長が展示指導に出向し、開会式には管長猥下がテープカットと講演に出杖された。

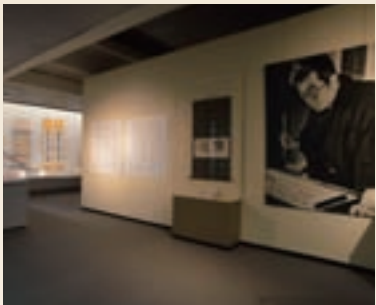


新潟市歴史博物館での相国寺展開会式

最後の文人會津八一の世界展 開催

(承天閣収蔵品と交換展)

右記の展観と交換で承天閣美術館では八一の作品を會津八一記念館と早稲田大学から拝借し「最後の文人會津八一の世界展」を十月六日から十二月二日まで開催した。八一は新潟県生まれ。大正から昭和の歌人・書家・美術史家。早



承天閣會津八一展示風景



承天閣會津八一展開会式

日本のこころ 相国寺・金閣・銀閣名宝展

於富山県水墨美術館

平成二十四年十月十二日から十一月二十五日まで、富山市の富山県水墨美術館に於いて「日本のこころ 相国寺・金閣・銀閣名宝展」が開催された。相国寺・鹿苑寺・慈照寺に伝来する長谷川等伯や俵屋宗達の屏風、国宝玳瑁天目・重文加賀光悦他茶道具の名品等約八十点を出品展示。入館者数は約三万七千人と盛況で、絵画・茶道具の逸品を熱心に見入った。展示会場へは承天閣鈴木局長が展示指導に出向し、開会式には管長猥下がテープカットと作品解説に出杖された。



富山水墨美術館に於ける相国寺展開会式での管長の作品解説

現在の展観

墨蹟の至宝展

平成二十四年十二月十二日〜平成二十五年三月十七日まで
|| 気迫あふれる禅僧の書 || 相国寺 鹿苑寺 慈照寺 他塔頭に伝来する中近世の五山林下の墨蹟を一堂に展示。

次期展観予告

観世能面装束展

観阿弥生誕六八〇年・世阿弥生誕六五〇年記念(承天閣美術館展示室)

「金閣・銀閣の寺宝・雪舟・等伯・宗達そして若冲」

於 福岡県久留米市有馬記念館と石橋美術館合同展観

平成二十五年一月十二日〜三月十日



新命住職入山



晋山式法要

第六教区広護寺 第三十世
井上宗光新住職晋山
平成二十四年十月二十六日



晋山式法要



住職辞命伝達

第五教区西光院 第十二世
金森大融新住職晋山
平成二十四年十一月十一日



(教区だより71ページ参照)

晋山式記念撮影



(教区だより70ページ参照)

晋山式記念撮影

とわ 永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

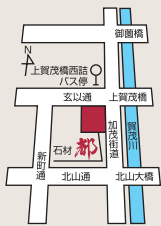
株式会社 石 杖 都 みやこ



代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間/AM8:30~PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本社：〒603-8103 京都市北区小山西玄以町24番地 (上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)
工場：京都市北区上賀茂神山389番24 (洛北病院バス停前) 電話(075)702-2440
夜間：京都市左京区岩倉南池田町117 電話(075)702-8814
御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた

「山光、我が心を澄ましむ」

雄大な山の景色と対峙すると、

自身のこころも澄み渡ってゆく

撮影◎教学部(山梨県富士吉田市にて)

